



やるか！やるか！



久しぶりに全学年、全学級がそろって今日の全校集会をTeamsで行うことができました。今日は卓球のオリンピック日本代表を勝ち取った平野選手のお話をしました。平野美宇選手は2015年9月2日、14歳の時に世界ランキングで17位となりましたが、石川佳純、福原愛、伊藤美誠に次いで日本人4番目であったため、2016年開催のリオ五輪女子団体代表から落選し団体戦の補欠選手となりました。その悔しさをバネに努力を続け、2020年1月6日、東京五輪団体の代表選手に内定したことが発表され、初の五輪出場を決めました。コロナの影響で1年延期になった2021年8月 - 東京オリンピック 女子団体で銀メダルを獲得したことはみんなの記憶にも残っていることだと思います。ただ、本人や他の選手もこだわっているシングルスの出場はできなかったのです。

そして今年のパリオリンピックへの激しい代表争いが続いていました。選手たちが特に目標としているのはシングルスでの代表。これは2名しか選ばれません。そして、この2名ともう1名の3名、そして補欠を含めた4名で団体戦に臨むということになります。早田選手が圧倒的なポイント数で代表入りを確実にしている中、平野選手と伊藤選手がシングルスでの代表争いを繰り返し、結果的に平野選手が勝ち取りました。そして、今日、もう一人の団体メンバーが君たちと同じ年代の中学生3年生、張本選手に決まりました。

代表入りが決まった平野選手に「オリンピックを目指してからここまで自分の声をかけるとしたら？」という質問をしたとき、彼女は「小さい頃からの夢だったオリンピック。リオで4番手で経験した時に羨ましい舞台だな、目標にしたいなと思いました。そこからシングルス2枚に必ず入ると目標を持って頑張ってきたが、東京の前は全日本やアジアで優勝できて勢いがあった時だったので3番手になってしまった。もう一度チャレンジして前回と同じになってしまったらどうしようと言う気持ちを今回は乗り越えられたので、試合だけではなく今後の人生にも活きると思います。」と答えています。

また、「これまでの自分との違いは？」という質問に対しては、「4年前くらいの選考では本当に卓球が嫌いで逃げたくて、毎日どうやったら現実逃避できるか考えていたが、今回は準備の時から逃げずにできた。**頑張りが足りなかつたと振り返るなら最初から頑張れと自分に喝を入れて、**この選考レースを最後までできたことが4年前より成長できたことだと思います。」と答えています。そしてこの時の彼女の強い気持ちを表す言葉を別のスポーツ番組のインタビューで答えています。それは「自分には、頑張るか頑張らないか、やるかやらないか、という選択肢はなかつた。私は**やるか、やるか**でやってきた。」という言葉です。

まさに頑張るしかない、やるしかない、それ以外はない。というすさまじい覚悟で戦ってきた人にしか言えない言葉であると思います。人はやらないと決めるとやらなくていい理由を考え始めます。いわゆる言い訳です。みんなにもやらない、できない理由を探すよりも今できることを考える人になってほしいと願っています。

3年生の皆さん、いよいよ2月10日・11日は私学入試となります。不安や緊張があるかもしれません、全国の中学生が今同じ気持ちで日々過ごしています。今まで当たり前のことを当たり前にやってきたみんなです。気持ちで負けるはずがありません。どうか、恐れず、自信をもって臨んでください。ベストを尽くせることを祈っています。がんばれ！！

